

草刈り

染谷秀雄

家の裏に比較的大きなマンションが建っている。かつては家の周りは大きな地主の柿畠になつていて、立派な次郎柿を何本も栽培していた。仁平農園と言われるくらいの地主で、時折、稔るとお裾分けして貰つた。いつだつたか忘れたがその次郎柿の木を父親が一本戴き丹精込めて育てた。この辺りの土壤は昔から関東ローム層のなかなかいい黒土だつたためか、すくすくと育ち、春の頃には芽吹きが眩しく秋には大きな柿が獲れた。その後、家を何度か建て替えを繰り返す中で大事にしていた柿の木も伐らざるを得なくなつた。裏の農家の先代夫婦も亡くなり、代替わりすると時代とともに柿畠もつぎつぎと伐採され宅地に切り分けられていつた。固定資産税の相続税の問題もあつたことだろう。そのうち遂に我が家の中には三階建ての比較的低い横長のマンションが建つようになつた。独身者向けの部屋のようで入居者は若い独身者ばかりで物干しには生活感のあるものはあまり乾されなかつた。今年になつてからか、マンションに住む明かりが見えないところが多くなつたと思つていつところ、どうもマンション経営を手放すことになつたようで入居者は一人二人と去り、雑草が繁りだした。昨年はやはり雑草が繁茂して兄が自分の家に届くところは刈つていたが足許も覚束なくなつてきて踏み台などから落ちても大変で、まして猛暑の中をやることは危険となりだんだんと手に負えなくなり、マンションを管理しているところを当り、ようやく連絡が付いた。しかしながら返事ばかりがよくてなかなか取りかかってくれないため、業を煮やして再度強力に申し出て何とか日にちも確認し二日間で草刈りをすることにこぎ着けた。自分でやればすぐ手を入れられるが他人の土地ではそれも叶わない。早く生活感の出るマンションの状態にして貰いたいものである。ちなみに我が家の南側にも二階建てだけの独身者向けのマンションが建つてしまつていて、都内ではそれも仕方ないことかもしれない。